

## 靖国神社の実態を知る 十一月五日ツアー体験記

### ☆ 内藤栄子

さん

終日快晴に恵まれ、ラッキーでございました。千鳥ヶ淵戦没者墓苑で献花を済ませ、大鳥居の近くにバスは停車しました。バスから降りて、賑やかなのにびっくりしました。私は鳥居をくぐらず、参拝もせず、真新しい建物や池、奥に見える本殿のつくり、材質を眺めました。(ツアー講師の) 島牧師の説明を聞きつつ、遊就館へ入りました。一階展示室を見てすぐエスカレーターで二

階に行きました。が、私は昭和三年生まれ、これらは殆ど(戦前の教育である)修身・国語・国史の中で学んできたものばかりでした。映像ホールで数分フィルムを見ましたが、お芝居がかつていて興味が持てませんでした。再び一階へ降り、人間魚雷や、ロケット特攻機を目の当たりにして、当時の(戦時中の)新聞やニュース映画が私の頭の中によぎりました。二十歳前の少年がこれに乗って死んでいったことを・・・。

レイテ湾上陸作戦で戦死した叔父、硫黄島その他で戦死した店の従業員たち、普天間を飛び立った同級生たち・・・。本望だったでしょうか。

遊就館を出て(神社を散策していると)、六〇年前にこの辺りを散策した事を思い出していました。満開の桜並木の片隅で二人の傷病兵が人々にお金を乞うていました。そして社

会では、自由主義を唱えた為、戦争に反対した為、獄に繋がれた人々が、連合軍の命令によって解放されたニュースで満ちていました。あらためて平和の大切さを思い知らされた一日でございました。

### ☆井上 主税さん

十一月五日(土) 平塚九条の会が取り組んだ「靖国神社ツアー」に参加しました。大型観光バス一台で補助席も使う大勢の参加者でした。

靖国神社到着前に千鳥ヶ淵戦没者墓苑を見学しました。この墓苑は、一九五九(昭和三四)年、国により建設されたとありますが、財団法人千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会という組織が深く関わっているように見えました。「奉仕会」機関紙を見ると一面トップに昭和天皇から「下賜」された御製(和歌)「国のため命捧げし人々のことを思えば胸せまりくる」を彫った石碑の写真が載っており、記事の中で大東亜戦争の用語が出てきたり、「残暑見舞い」広告に靖国神社が名

前を連ねるなど、靖国とも関わりのある施設だなど思いました。

いよいよ靖国神社の見学です。始めに大鳥居や拝殿など構内を一回りしてお目当ての遊就館に入りました。時間がなくて駆け足の見学でしたが、「しんぶん赤旗」などで得た知識をしっかりと実況見分で確かめて回りました。

映像ホールでは、「大東亜戦争」は日本が生き残っていくために、自存自衛の戦争だった・・・正しい戦争だった、アジアを欧米列強から独立させるねらいもあった、日本が戦争の火蓋を切るようにとのアメリカの策略にのせられた・・・こういったことが当時の日本の支配層なりの理由をつけて上映されていました。

展示室には明治維新、日清・日露戦争、第二次世界大戦へと続いた歴史にそって「英霊」の遺品、兵器や武器などが陳列してあり、一つは殉国の英霊を慰霊顕彰し、一つは近代史の真実を明らかにすることだそうです(遊就館発行のパンフレットより)。

外に出て思ったことは靖国神社の見学者が大変に多いこと、私達みたいな批判的観点からの人ばかりではないと思います。考えさせられました。頭にきたのは売店で小泉首相の似顔絵が包装紙に書いてある「純ちゃん饅頭」が売られていた事です。

バスの中での発言で特に印象に残ったのは、小泉が靖国参拝で言い訳する常套句に「戦没者に感謝と敬意を捧げる」がありますが、捧げるのではなく行なうべきは「謝罪」であり、死に追いやられた戦没者に為政者として謝罪すべきだと思います。

靖国、憲法九条、米軍基地強化…課題は山積しています。微力ながら問題解決のために力を尽くしたいと思います。

## ☆鈴木美都子さん

長い間 関東に住みながら一度も訪れようと思っただ事はありません。

した。遠い親戚の者が兄弟二名で祀られているという事は聞かされていましたが、行かねばという感覚もありませんでした。良い機会を与えて頂きました。

神社そのものはすばらしいロケーションだし、風格ある建造物として感服しました。

問題は遊就館だと思いました。日本の戦争、戦果の英雄崇拜的記録展示に終始し、沖縄戦や原爆の現実の姿の記録はありません。片手落ちとしか言いようがありません。東京裁判で唯一人無罪を表明したインドのパール判事だけの顕徳碑に到っては、あまりにあからさまで、あいた口がふさがらないといったところでした。それだけに入り口近くに貼られた数知れない死者の写真は胸に迫ります。無駄死にだった人々！どんなに崇め、礼を尽くしてみても、犬死には犬死にです。その現実をしつかり踏まえ、国を問わず 又 兵・民を問わず、戦争によるすべての死者、被害者に、国として謝罪し、静かに悼む

ことが、何よりも必要なことだろうと思います。

## ☆田辺レイ子さん

靖国神社周辺七句

○軍艦マーチが

桜葉散らす 大鳥居

○落葉踏みしむ

兵士の屍 ふむように

○桜もみづる

「九段の母」の濡れの色

○身に沁むや

遺品の軍帽 戦ノー

○日がな軍歌奏でる

男そぞろ寒む

○サルビヤ燃え

千鳥ヶ淵の無縁墓碑

○よるべなき兵士の遺骨

菊一輪

平塚「九条の会」の呼びかけで企画された靖国神社バスツアーに参加、一度は是非行って見たいという私の

長年の思いを果たす事が出来ました。先の戦争と長い間の植民地支配で多大の被害を受けた近隣諸国の反発や大阪地裁の違憲判決を無視して首相の靖国参拝は今年も強行されました。多感な少女時代好きだった先生を戦場に送り、平塚空襲後は家族と離れ福島へ疎開、そして戦後の辛かった食糧難の時代、当時を振り返ってこんな句を作ったこともあります。

○父の忌や

ひもじき頃の赤トンボ

二度と繰り返してはならない悲劇の歴史、その砦となる平和憲法は身体を張って守らねばと思いを新たに致しました。

## ☆梶山登さん

(遊就館に兵器や武器などを)よくぞあれだけ集めたものだ。日本が負けたという事実が何もなかった！若い人には「カツコ良さ」だけかな。私にはこれから先が心配である。